



科研費ガイドブック

申請までのステップ

2025年7月

佐賀大学

リージョナル・イノベーションセンター

目次

○ 科研費について 2

運営費交付金と競争的資金	3
・ 運営費交付金	3
・ 競争的資金	3
科学研究費助成金（科研費）	4
・ 科研費	4
・ 研究種目	4
制度の変遷と近年の主な制度改革	5
科研費審査システム改革の概要	6
応募	7
審査区分	8
審査の流れ	9
参考となる関連情報	11
・ JSPS 科学研究費助成事業（科研費）WEBページ	11
・ パンフレット ・ 科研費ハンドブック	12
・ 研究推進課 科研費WEBページ	13
・ リージョナル・イノベーションセンター WEBページ	14
重複制限一覧	15

○ 採択を目指して 23

各研究種目の公募時期	24
学内説明会やセミナー	25
SURICによる支援	26
・ 科研費ブラッシュアッププログラム スケジュール	27
採択の扉	28
・ 「科研費申請のための頭の整理」	29
・ 「競争的資金取得に向けた頭の整理」	30
・ 過去の採択された計画調書の閲覧	39
科学研究費助成事業データベース	40
採択へ向けての“秘訣”	41
「アイデアの作り方」	42
（参考）令和8年度公募における主な変更点等	43

○ 科研費について

運営費交付金と競争的研究費

運営費交付金

- 国立大学法人制度発足（2004年）に伴い導入
- 教育と研究を通じて社会に貢献するための**基盤的経費**
- 「選択と集中」政策により**年々削減**

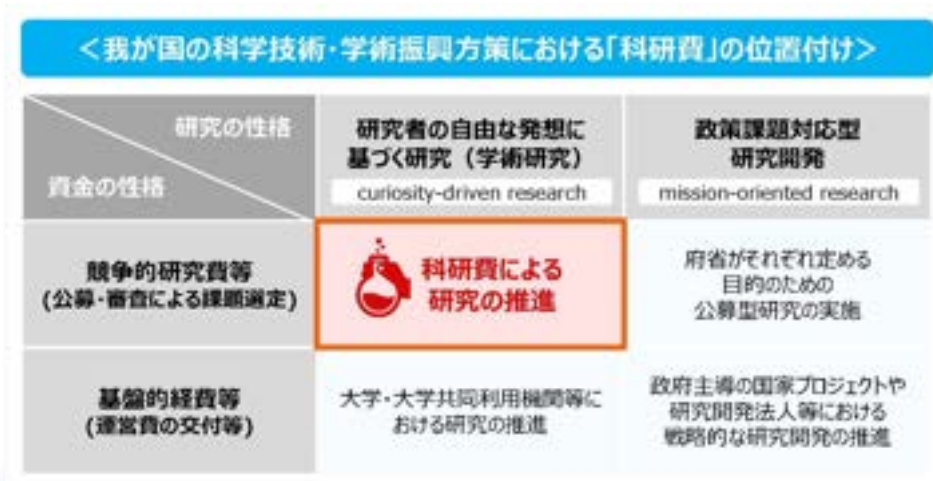
⇒ 外部資金獲得の必要性が、年々高まっている



J S T 研究開発センター (CRDS) 研究開発の俯瞰報告書
日本の科学技術・イノベーション政策 (2022年) より

競争的研究費

- 運営費交付金の減少の代わりに、研究者が応募し審査を経て獲得する競争的研究費の割合が増加
- 限られた研究資金を、より優れた研究に配分
- 最も代表的な競争的研究費は、日本学術振興会 (JSPS)によって運営される**科研費**



JSPS 科研費ハンドブック 2024年度版より

科学研究費助成事業

科研費
KAKENHI

科研費

全国の大学や研究機関においては、様々な研究活動が行われています。科学研究費助成事業（科研費）はこうした研究活動に必要な資金を研究者に支援する仕組みの一つで、人文学、社会科学から自然科学までの全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を幅広く支援しています。

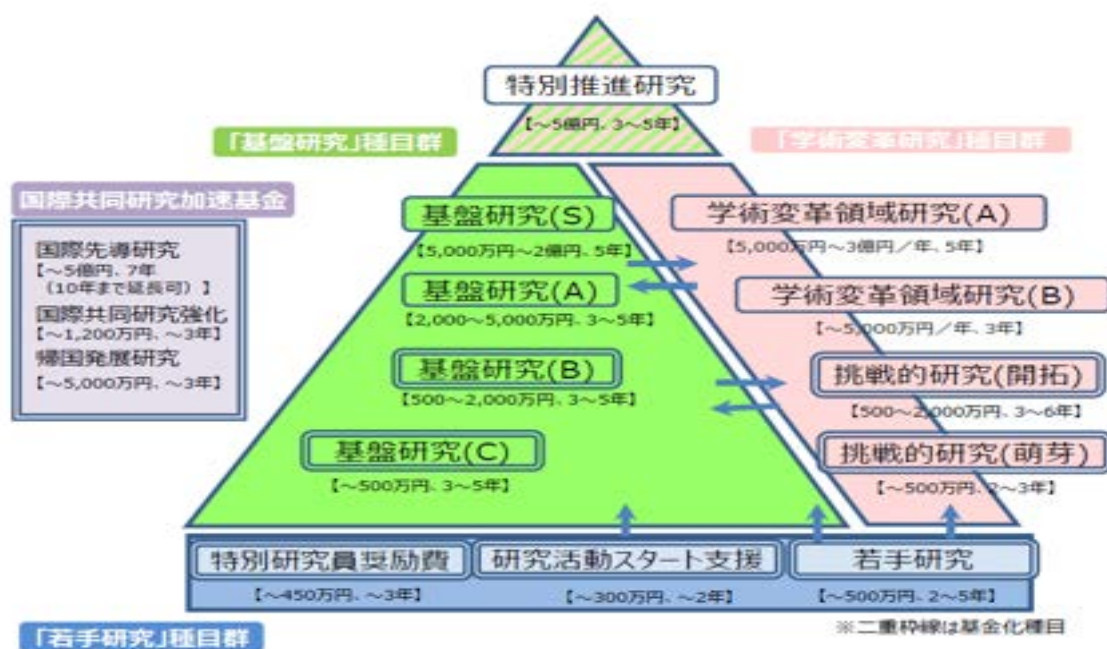
科研費では質の高い優れた研究課題を選定するため、研究者のピアレビュー*に審査を行っています。

*研究者コミュニティが自ら選ぶ研究者が、科学者としての良心に基づき、個々の研究の学術的価値を相互に評価・審査しあうシステム

研究種目

研究の段階や規模などに応じて「研究種目」が設定されています。応募する研究者は応募要件を確認した上で、自身の研究計画の内容や規模に応じて研究種目を選ぶことができます。

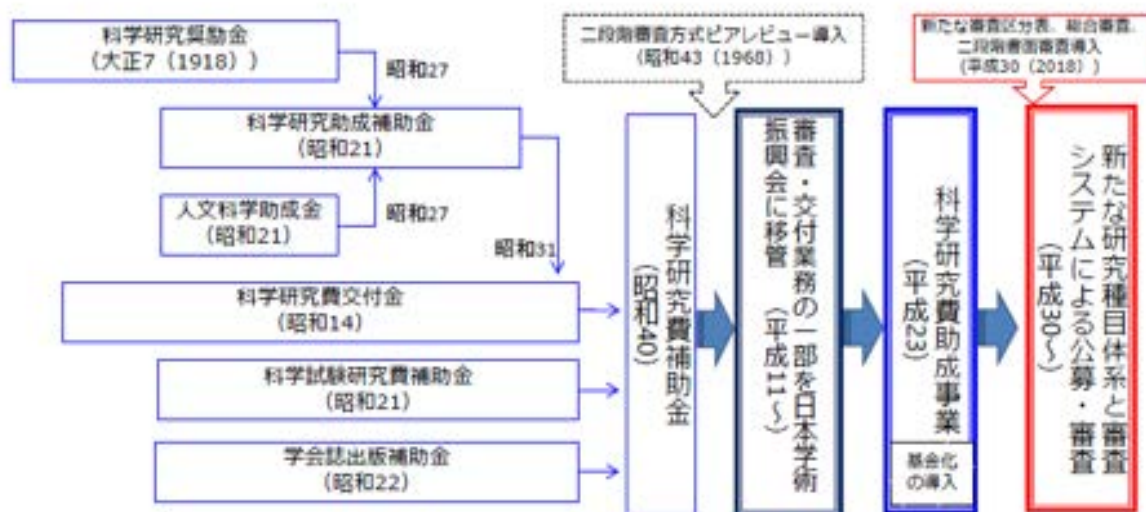
科研費の各研究種目の役割及び全体構成等



令和7年度科研費制度セミナー「科学研究費助成事業について」資料より

制度の変遷と近年の主な制度改革

科研費制度の変遷と近年の主な制度改革



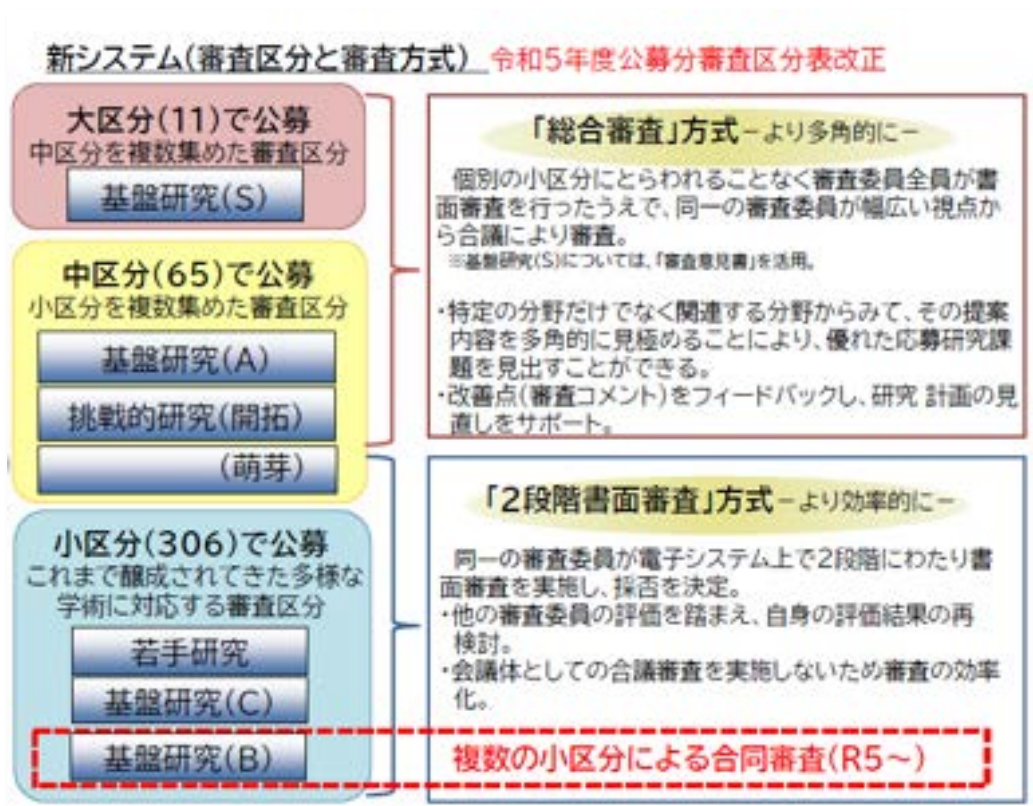
令和7年度科研費制度セミナー「科学研究費助成事業について」資料より

近年の科研費の制度改革

- 2001（平成13）一部種目から間接経費を措置、研究支援者の雇用を実現
- 2003（平成15）PD・PO制度である学術システム研究センターを設置
- 2011（平成23）「基金化」の導入
- 2013（平成25）補助金に「調整金」枠を設定（前倒し使用、一定要件を満たす場合の次年度使用）
- 2015（平成27）基金交付対象の見直し、海外在住日本人研究者の帰国前予約採択
- 2017（平成29）「挑戦的萌芽研究」を「挑戦的研究」に発展・見直し
- 2018（平成30）新たな「研究種目・枠組み」及び新たな「審査システム」による公募・審査
- 2019（平成31）研究成果等の公開情報の充実、海外渡航による科研費の中断・再開制度の導入
- 2020（令和2）「挑戦的研究（開拓）」の基金化
- 2021（令和3）公募スケジュールの前倒しを実施、「国際先導研究」を創設
- 2022（令和4）「特別研究員奨励費」の基金化
- 2023（令和5）「基盤研究（B）」の基金化

科研費審査システム改革の概要

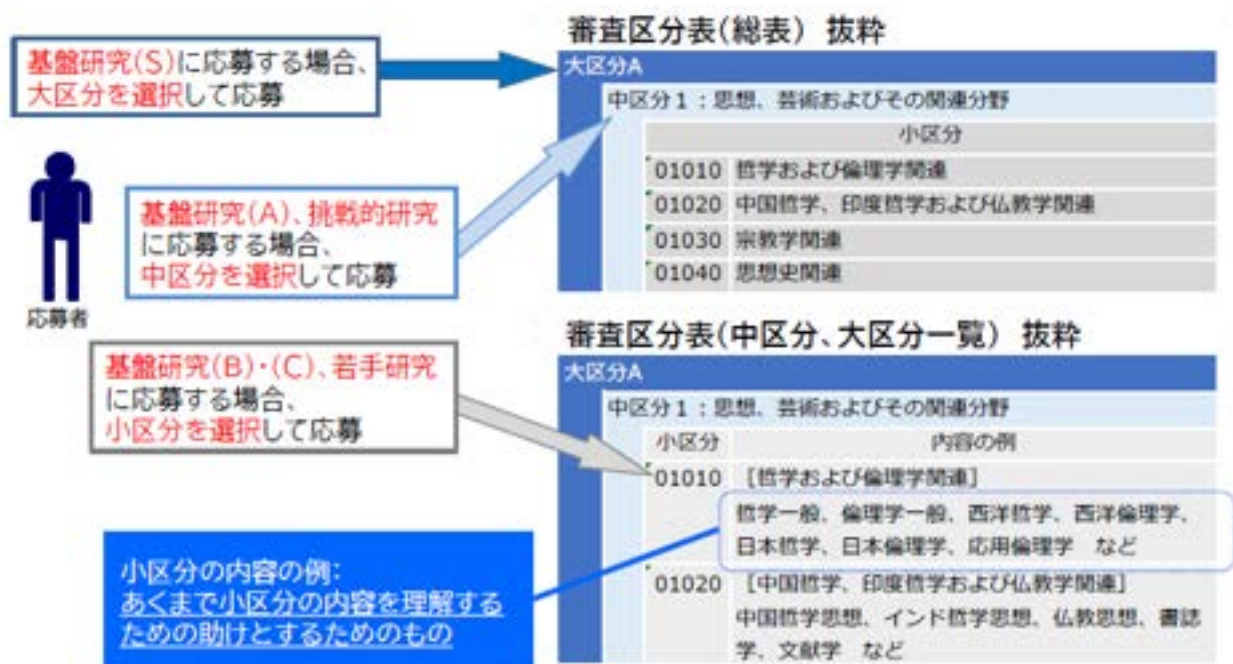
多様かつ独創的な学術研究を振興するために、科研費の公募・審査の在り方は不断に見直されています。



注) 人文社会・理工・生物等の「系」単位で審査を行っている大規模研究種目(「特別推進研究」、「新学術領域研究」)の審査区分は基本的に現行どおり実施する。審査方式については、当該種目の見直しの進捗を踏まえて逐次改善する予定。

審査区分

- 応募者は自らの判断により、「応募する研究種目」に対応する「審査区分」を選択
 - 区分は“学問分野の体系化を趣旨としたもの”、“大学の学科・専攻や学会の分野などに基づいているもの”のいずれでもない
 - 固定化されたものでなく、学術研究の新たな展開や多様な広がりにも柔軟に対応できるよう設定
- (小区分は「〇〇関連」、中区分は「〇〇および関連分野」、大区分は分野名を付さずに記号(A～K)で表記)



審査の流れ

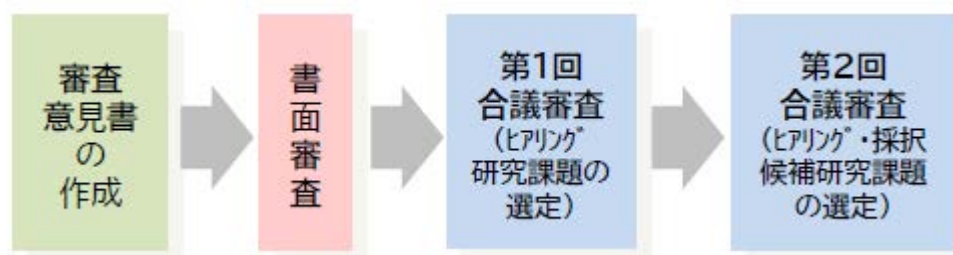
- 科研費の審査は各種目で定められた評価基準等に従って審査されます。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html#u20230311174420

- 審査方法には【総合審査】、【2段階書面審査】があります

【総合審査】

「特別推進研究」、「基盤研究(S)」



「基盤研究(A)」、「挑戦的研究(開拓)*」



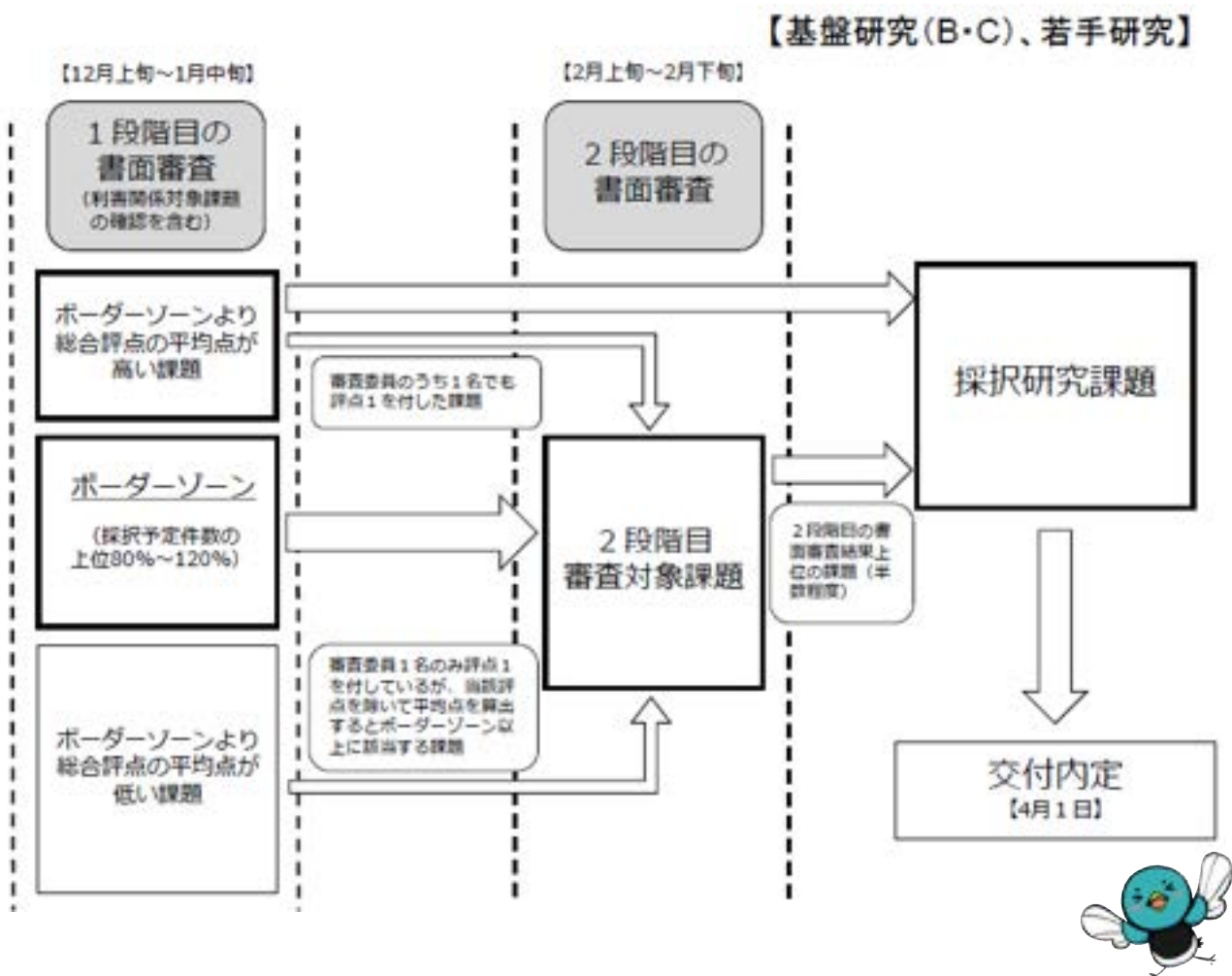
【2段階書面審査】

「基盤研究(B・C)」、「若手研究」、「挑戦的研究(萌芽)*」



*挑戦的研究（萌芽）の審査は、令和3（2021）年度公募以前は総合審査で行われていましたが、令和4（2022）年度公募からは2段階書面審査で行われています。

2段階書面審査の流れ（イメージ）



参考となる関連情報等

・ JSPS 科学研究費助成事業（科研費）WEBページ

<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/>

公募情報やルールなど様々な科研費情報はこちらで



The screenshot shows the official website of the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) for Grants-in-Aid for Scientific Research. The header includes the JSPS logo and the text '日本学術振興会'. The main navigation bar has links for '日本学術振興会について', '事業のご案内', 'お知らせ', '情報公開', and 'お問い合わせ'. The sidebar on the left contains links for 'トップ', '制度概要', '科研費ハンドブック', '科研費FAQ', '公募情報', '各種目のページ', '使用ルール・様式集', '審査・評価関係', and '科研費におけるオープンサイエンス'. The main content area features a large heading '科学研究費助成事業（科研費）' with the English translation 'Grants-in-Aid for Scientific Research' and the subtitle '(学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金)'. Below this is a section titled '科研費' with a brief description of the program. A prominent announcement box states '公募を開始しました' (Public solicitation has begun) with the dates '公募期間：4月11日（金）～6月17日（火）午後4時30分（届守）' and a link to '特別推進研究、基礎研究（S）'.

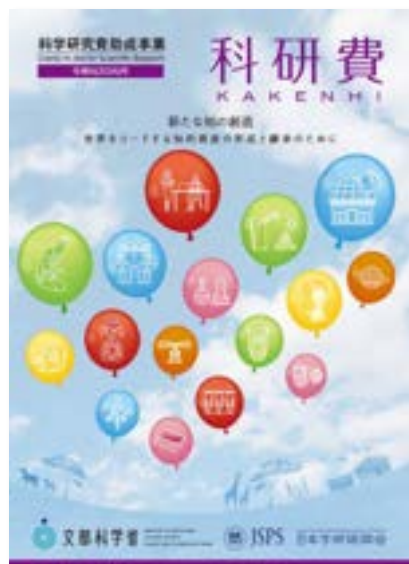


・JSPS 科学研究費助成事業（科研費）

続き

科研費パンフレット

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/24_pamph/index.html



概要や参考資料・データをわかりやすく紹介しています。

科研費ハンドブック（研究者用）

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/15_hand/index.html



主に研究者の方々を対象として、科研費についての基本的な内容を分かりやすく解説しています。印刷していつでも確認できるようにしておくことをお勧めします。

※年度が変わるとリンク先も変わる可能性があります。その際は科研費HPメニューからご確認ください。

・研究推進課 科研費 WEBページ

<https://www.saga-u.ac.jp/kokusai/kaken.html>

研究種目別の情報（学内締め切り含む）や科研費に関する各種情報、リンク先などの一覧を確認できます。

佐賀大学 研究推進のページ

研究推進課ウェブサイト

ホーム

論文のオープンアクセスについて

科研費FAQ
学術情報ページ
(令和5年4月版)
文庫情報ページ
(令和5年4月版)

最新研究名簿 ※学内適用

応募資格者
(令和5年12月改正)
応募資格者について

応募資格確認申請書
(令和5年12月様式改正)
様式
記入例

学内プロジェクト番号付与について ※学内適用

研究施設番号一覧

研究費の不正使用防止に向けた佐賀大学の取り組みについて

科学研究費助成事業－科研費－の執行等について(重要事項) (2024改定版)

科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心構え－

研究活動の公正性の確保及び適正な研究費の使用について、確認・監査すべき事項 (R2.2更新)

科研費ハンドブック等
研究機関用 (2024年度)
研究機関用 (2024年度)
パンフレット2024

研究者使用ルール
(補助条件・交付条件等)
(2024年)

【補助金分】
【基金分】
【助成研究】

【ひらめきと音のきこえ】
補助条件
留意事項及び関係機関の連携について
実施にあたってのQ&A

【学内図書】
補助条件
留意事項及び関係機関の連携について

【特別研究員奨励費】

【外国人特別研究員奨励費】
日本語版
英語版

【国際共同研究推進基金】

科学研究費助成事業（令和7年度）

コンテンツ

月日	項目	研究種目等	詳細・参照等	システム 適用 状況	提出書類 学内提出期限
2025.4.22	交付決定	特別研究員奨励費	学術通知 ※R7.4.22付 交付決定一覧 【特別研究員奨励費システムで作成・送信。関係者の確認は必要ありません。】	適用	交付申請書等 2025.5.9（金）
2024.4.15	募集	特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付	令和(2026)年度科学研究費助成事業 特別研究員奨励費、基盤研究（B） 学術通知 ※R7.4.15付 学術通知 ※R7.4.15付 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付	適用	研究計画書等 2025.6.3（水）
2025.4.13	募集	特別研究員奨励費	学術通知 ※R7.4.13付 学術通知 ※R7.4.13付 学術通知 ※R7.4.13付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.13付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.13付	適用	研究計画書等 2025.6.9（月）17時
2025.4.15	募集	特別研究員奨励費	学術通知 ※R7.4.15付 学術通知 ※R7.4.15付 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.15付	適用	研究計画書等 2025.5.12（月）17時
2025.4.3	交付決定	特別研究員奨励費	学術通知 ※R7.4.3付 学術通知 ※R7.4.3付 学術通知 ※R7.4.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.4.3付	適用	交付申請書等 2025.4.13（金）
2025.3.3	募集	基盤研究（B・C） 学術通知 ※R7.3.3付 学術通知 ※R7.3.3付 学術通知 ※R7.3.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.3.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.3.3付	令和(2026)年度科学研究費助成事業 基盤研究（B・C） 学術通知 ※R7.3.3付 学術通知 ※R7.3.3付 学術通知 ※R7.3.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.3.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.3.3付	適用	交付申請書等は令和7年4月11日付に作成・提出
2025.3.3	募集	特別研究員奨励費	学術通知 ※R7.3.3付 学術通知 ※R7.3.3付 学術通知 ※R7.3.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.3.3付 特別研究員奨励費 学術通知 ※R7.3.3付	適用	研究計画書等 2025.4.24（水）

過去の科学研究費助成事業情報

2024《令和6》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2023《令和5》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2022《令和4》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2021《令和3》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2020《令和2》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2019《令和元》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2018《平成30》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2017《平成29》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

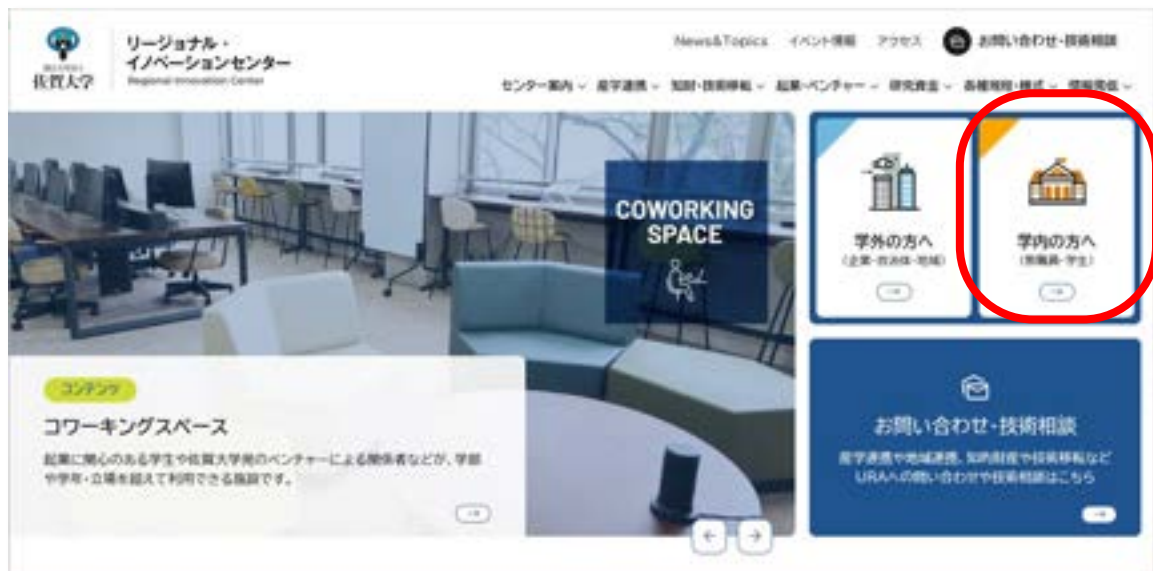
2016《平成28》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

2015《平成27》年度科学研究費助成事業－科研費－情報

・リージョナル・イノベーションセンター WEBページ

<https://www.suric.saga-u.ac.jp/>

学内向けのページに、研究資金情報について掲載しています。



別表 1 重複制限一覧表

1-1)「研究代表者(新規・継続)(甲欄)→研究代表者(乙欄)」型

乙欄 		
--	--	--

空欄：双方の研究課題とも応募できる

—：同一の研究種目（応募区分）においては、一つの研究課題にのみ応募できる（甲欄の継続研究課題を有する場合は、乙欄の研究課題に応募できない）

×：一つの研究課題にのみ応募できる（甲欄の研究課題に応募した場合には、乙欄の研究課題に応募できない）

▲：乙欄の研究課題に応募できない（甲欄の継続研究課題の研究のみ実施する）

■：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、甲欄の研究課題の研究のみ実施する

□：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する

★：原則として重複応募は認めない（明らかに異なる2つの研究を同一年度内に行う必要がある場合を除く）

※1 受給回数2回目の「若手研究」に応募可能な場合が該当します。受給回数制限については、20頁を参照してください。

※2 国際共同研究強化（B）については、令和2(2020)年4月に公募を予定しています。

1-2)「研究代表者(新規・継続)(甲欄) → 研究代表者(乙欄)」型

本表は、「甲欄の研究課題(文部科学省が公募する研究種目)について研究代表者として応募しようとする者又は令和2(2020)年度に継続が予定されている研究課題(継続研究課題)の研究代表者となっている者」が、乙欄の研究課題に研究代表者として応募する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	若手研究	挑戦的研究	
						一般	一般	一般		開拓	萌芽
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者
新学術領域研究(研究領域提案型)	総括班※計画研究	継続	代表者	▲	▲					▲	
		継続	代表者	□						▲	
	公募研究	新規	代表者	□						×	
		継続	代表者	□						▲	

※国際活動支援班は総括班と同様の重複制限となります。

空欄：双方の研究課題とも応募できる

×：一つの研究課題にのみ応募できる（甲欄の研究課題に応募した場合には、乙欄の研究課題に応募できない）

▲：乙欄の研究課題に応募できない（甲欄の継続研究課題の研究のみ実施する）

□：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する

2-1)「研究代表者(新規・継続)(甲欄) → 研究分担者(乙欄)」型

本表は、「甲欄の研究課題(日本学術振興会が公募する研究種目)について研究代表者として応募しようとする者又は令和2(2020)年度に継続が予定されている研究課題(継続研究課題)の研究代表者となっている者」が、乙欄の研究課題に研究分担者として参画する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 <		
---	--	--

空欄: 双方の研究課題とも応募できる

×: 一つの研究課題にのみ応募できる(甲欄の研究課題に応募した場合には、乙欄の研究課題に応募できない)

▲: 乙欄の研究課題に応募できない(甲欄の継続研究課題の研究のみ実施する)

■: 双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、甲欄の研究課題の研究のみ実施する

2-2)「研究代表者(新規・継続)(甲欄) → 研究分担者(乙欄)」型

本表は、「甲欄の研究課題（文部科学省が公募する研究種目）に研究代表者として参画しようとする者又は令和2（2020）年度に継続が予定されている研究課題（継続研究課題）の研究代表者となっている者」が、乙欄の研究課題に研究分担者として参画する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	挑戦的研究	
						一般	一般	一般	開拓	萌芽
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				分担者	分担者	分担者	分担者	分担者	分担者	分担者
新学術領域研究（研究領域提案型）	総括班※計画研究	継続	代表者	▲						
	総括班※計画研究	継続	代表者							
	公募研究	新規	代表者							
		継続	代表者							

※国際活動支援班は総括班と同様の重複制限となります。

空欄：双方の研究課題とも応募できる

▲：乙欄の研究課題に応募できない（甲欄の継続研究課題の研究のみ実施する）

3-1)「研究分担者(新規・継続)(甲欄) → 研究代表者(乙欄)」型

本表は、「甲欄の研究課題(日本学術振興会が公募する研究種目)に研究分担者として参画しようとする者又は令和2(2020)年度に継続が予定されている研究課題(継続研究課題)の研究分担者になっている者」が、乙欄の研究課題に研究代表者として応募する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄			特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	若手研究	挑戰的研究		特別研究員奨励費	新学術領域研究
					一般	一般	一般		開拓	萌芽		研究領域提案型
新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	公募研究			
代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者		
特別推進研究			新規	分担者	×							
			継続	分担者	▲							
基盤研究 S			新規	分担者	□							
			継続	分担者	□							
基盤研究 A	一般	新規	分担者	□								
		継続	分担者	□								
	海外学術調査	継続	分担者	□								
基盤研究 B	一般	新規	分担者	□								
		継続	分担者	□								
	海外学術調査	継続	分担者	□								
	特設分野研究	継続	分担者	□								
基盤研究 C	一般	新規	分担者	□								
		継続	分担者	□								
	特設分野研究	継続	分担者	□								
挑戰的研究	開拓	新規	分担者	□								
		継続	分担者	□								
	萌芽	新規	分担者	□								
		継続	分担者	□								
挑戰的萌芽研究		継続	分担者	□								
国際共同研究強化 B		継続	分担者	□								

空欄：双方の研究課題とも応募できる

×：一つの研究課題にのみ応募できる（甲欄の研究課題に応募した場合には、乙欄の研究課題に応募できない）

▲：乙欄の研究課題に応募できない（甲欄の継続研究課題の研究のみ実施する）

□：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する

3-2)「研究分担者(新規・継続)(甲欄) → 研究代表者(乙欄)」型

本表は、「甲欄の研究課題（文部科学省が公募する研究種目）に新たに研究分担者として参画しようとする者又は令和2（2020）年度に継続が予定されている研究課題（継続研究課題）の研究分担者となっている者」が、乙欄の研究課題に研究代表者として応募する場合の重複制限を示したものです。

甲欄				乙欄									
				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	若手研究	挑戰的研究		特別研究員奨励費 （特別研究員）	
						一般	一般	一般		開拓	萌芽		
						新規	新規	新規		新規	新規		新規
				代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	
（研究領域提案型） 新学術領域研究	計画研究	新規	分担者	☐									
		継続	分担者	☐									

空欄：双方の研究課題とも応募できる
□：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する

4) 「学術変革領域研究」との重複制限一覧表

本表は、文部科学省が令和2(2020)年1月以降に公募する予定の「学術変革領域研究」と、今回公募する研究種目との重複制限を示したものです。今後、「学術変革領域研究」に応募を予定している研究者は十分確認してください。

なお、「学術変革領域研究」の重複制限の考え方は以下のとおりです。

- 「学術変革領域研究（A）」の重複制限は、従来の「新学術領域研究（研究領域提案型）」における重複制限と同様。
- 「学術変革領域研究（B）」の重複制限は、従来の「新学術領域研究（研究領域提案型）」における重複制限を基本としつつ、研究種目の趣旨等を踏まえ、「学術変革領域研究（A）」と比較して次のとおり重複制限を緩和。

【重複応募・受給を認めるもの】

- ・「学術変革領域研究（B）」の領域代表者と「基盤研究（S）」の研究代表者
- ・「学術変革領域研究（B）」の領域代表者及び計画研究代表者と「挑戦的研究（開拓）」の研究代表者
- ・「学術変革領域研究（B）」の領域代表者と「特別推進研究」の研究分担者

4-1) 「研究代表者（新規）（甲欄） → 研究代表者（乙欄）」型

本表は、「甲欄の研究課題（学術変革領域研究）について研究代表者として応募しようとする者」が、乙欄の研究課題に研究代表者として応募する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	若手研究	挑戦的研究	
						一般	一般	一般		開拓	萌芽
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者
学術変革領域研究（A）	総括班	新規	代表者	×	■					×	
	計画研究	新規	代表者	□						×	
学術変革領域研究（B）	総括班	新規	代表者	×							
	計画研究	新規	代表者	□							

空欄：双方の研究課題とも応募できる

×：一つの研究課題にのみ応募できる（甲欄の研究課題に応募した場合には、乙欄の研究課題に応募できない）

■：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、甲欄の研究課題の研究のみ実施する

□：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する

4－2）「研究代表者（新規）（甲欄） → 研究分担者（乙欄）」型

本表は、「甲欄の研究課題（学術変革領域研究）について研究代表者として応募しようとする者」が、乙欄の研究課題に研究分担者として参画する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	挑戦的研究	
						一般	一般	一般	開拓	萌芽
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				分担者	分担者	分担者	分担者	分担者	分担者	分担者
学術変革領域研究（A）	総括班	新規	代表者	×						
	計画研究	新規	代表者							
学術変革領域研究（B）	総括班	新規	代表者							
	計画研究	新規	代表者							

4－3）「研究分担者（新規）（甲欄） → 研究代表者（乙欄）」型

本表は、「甲欄の研究課題（学術変革領域研究）について研究分担者として参画しようとする者」が、乙欄の研究課題に研究代表者として応募する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	若手研究	挑戦的研究	
						一般	一般	一般		開拓	萌芽
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者	代表者
学術変革領域研究（A）	計画研究	新規	分担者	□							
学術変革領域研究（B）	計画研究	新規	分担者	□							

4－4）「研究分担者（新規）（甲欄） → 研究分担者（乙欄）」型

本表は、「甲欄の研究課題（学術変革領域研究）について研究分担者として参画しようとする者」が、乙欄の研究課題に研究分担者として参画する場合の重複制限を示したものです。

乙欄 甲欄				特別推進研究	基盤研究 S	基盤研究 A	基盤研究 B	基盤研究 C	挑戦的研究	
						一般	一般	一般	開拓	萌芽
				新規	新規	新規	新規	新規	新規	新規
				分担者	分担者	分担者	分担者	分担者	分担者	分担者
学術変革領域研究（A）	計画研究	新規	分担者							
学術変革領域研究（B）	計画研究	新規	分担者							

空欄：双方の研究課題とも応募できる
×：一つの研究課題にのみ応募できる（甲欄の研究課題に応募した場合には、乙欄の研究課題に応募できない）
□：双方の研究課題とも応募できるが、双方採択となった場合には、乙欄の研究課題の研究のみ実施する

○ 採択を目指して

各研究種目の公募時期

令和8（2026）年度採択分

各種目の公募時期について

<令和8（2026）年度採択分>

研究種目名	公募開始	公募締切	審査結果通知	交付内定
特別推進研究	令和7年4月11日	令和7年6月17日	令和8年1月上旬	令和8年4月上旬
基礎研究（S）	令和7年4月11日	令和7年6月17日	令和8年2月中旬	令和8年4月上旬
学術変革領域研究（A・B）	令和7年4月11日	令和7年6月17日	令和8年2月中旬	令和8年4月上旬
学術変革領域研究（A）（公募研究）	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月中旬	令和8年4月上旬
基礎研究（A・B・C）、若手研究	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月下旬	令和8年4月上旬
奨励研究	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年1月下旬	令和8年4月上旬
挑戦的研究（開拓・萌芽）	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年6月下旬 （令和8年2月下旬（※））	令和8年6月下旬
研究成果公開促進費	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年3月下旬	令和8年4月上旬

（※）「事前の選考」の審査結果通知の時期。

<令和7（2025）年度採択分>

研究活動スタート支援		令和7年3月1日	令和7年5月8日	令和7年7月下旬	令和7年7月下旬
国際共同研究加速基金	国際先導研究	令和7年1月9日	令和7年3月14日	令和7年11月下旬	令和7年11月下旬
	国際共同研究強化	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月下旬	令和8年2月下旬
	国内発展研究	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月下旬	令和8年2月下旬
	海外連携研究	公募停止（令和7年度採択分以降、公募は行いません）			

8



令和7年度科研費制度セミナー「科学研究費助成事業について」資料より

学内説明会やセミナー

例年、科研費獲得に向けた説明会やセミナーが開催されます。積極的にご活用下さい。

《令和7年度開催》

●令和7年度科研費制度セミナー

「科学研究費助成事業（科研費）について」

令和7年6月6日（金）10：30～12：00

講師：文部科学省研究振興局学術研究推進課企画室 室長 大鷲 正和 氏

●令和8年度科研費の獲得に向けた講演会

「科研費採択への王道と近道

～チェックリストの読破と実行～」

令和7年6月19日（木）14：40～16：10

講師：公立大学法人名古屋市立大学

理事長 郡 健二郎 氏

**令和8年度科研費の
獲得に向けた講演会**
令和7年6月19日（木）
14時40分～16時10分

会場：理工学部6号館2階多目的セミナー室
※Zoomによる同時配信予定

対象：佐賀大学の役員・教職員 募集要項中品

演題：「科研費採択への王道と近道
～チェックリストの読破と実行～」

講演者：郡 健二郎 氏
公立大学法人名古屋市立大学理事長

講演内容：
1) 講演を聞かなくても、独り読破できる
2) チェックリストの読み解き方
3) 読解を支援するツール
4) 読解から申請までの時間と採択率の向上
5) オレンジル（論文）の活用と採択率の向上
その他重要なポイント

申込方法：
・下記URL
・名古屋大学ポータルより登録

問合せ先：
名古屋大学学術研究推進課企画室
電話：052-251-4441
Eメール：sakuraga@nagoya-u.ac.jp

* 開催されたセミナー資料や動画はこちら（学内）

<https://www.saga-u.ac.jp/kokusai/event/gakunai/event.html>

（過去年度開催分もあり）



SURICによる支援

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター（SURIC）では、科研費獲得をはじめとする競争的研究費獲得に向けて、いくつかの支援活動を行っています。

1. 科研費申請ブラッシュアップ・プログラム

リサーチ・アドミニストレーター（URA）による、研究計画調書の ブラッシュアップ・プログラムです。担当するURAが面談、メールなどで伴走支援します。

申請予定の研究計画調書について、2回以上のやり取りを実施し、研究計画調書の推敲を重ねます。

* 次ページに令和7年度のスケジュールを掲載

※ 各学系等で実施する添削支援等への参加の有無に関わらず申し込み可能

※ 人数制限あり（令和7年度は60名）



2. 採択の扉

リージョナル・イノベーションセンターのWEBページ内に、科研費をはじめ各種の競争的資金獲得のために、採択されるための書き方や申請書作成のポイントをまとめた資料を学内限定で公開しています。

https://www.suric.saga-u.ac.jp/funding/saitaku_tobira/

* 本ガイドブック20ページ以降掲載の詳細情報や活用方法をご参照ください。

3. 過去の採択された計画調書の閲覧

採択の可能性を高めるための調書の作成には、過去に採択された他の研究者の調書の優れた記載例などを参考にして、自らの調書を作成することも有効です。

科研費に採択された研究者に本取組についてのご理解を頂き、学内限定公開のご了解を頂いたものを閲覧できます。

※ URA室（本庄キャンパス・産学交流プラザ1階101号室）内でのみ閲覧可能です。

令和8年度科研費申請ブラッシュアッププログラム スケジュール

2025年6月

佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター

6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
								(URA支援) 科研費申請ブラッシュアッププログラム申込					
6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
受付締切													
URA支援期間 前半 (事前面談、早期支援取組など)													
6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
URA支援期間 前半 (事前面談、早期支援取組など)													
7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
公募開始													
URA支援期間 前半 (事前面談、早期支援取組など)													
7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
公募期間													
講習1次締切 URA支援期間 後半							URA支援期間 後半 (講習ブラッシュアップ作業)						
8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
公募期間													
URA支援期間 後半 (講習ブラッシュアップ作業)													
8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
公募期間 学内締切													
URA支援期間 後半 (講習ブラッシュアップ作業)													
9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
							公募締切						
URA支援期間 後半 (講習ブラッシュアップ作業)													

採択の扉

(SURIC HPより)

・「科研費申請のための頭の整理」

申請書作成前に1枚の紙で「頭の整理」を行っていませんか？

まず研究全体を俯瞰して見ることでできるよう1枚にまとめると、自身の狙いや考えを整理してから研究計画調書の作成に入れます。

科研費申請 構成の考え方

1. 研究目的、研究方法など

(1) 学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」

何が問題なのか、何を解明すべきなのかを明確に書く。

(1)-1 本研究の学術的背景（申請者他の研究者）

「問い」の前半に書くべき
●「背景」と「問い」

(1)-2 研究課題の核心をなす「問い」、何が問題で解明すべき課題は？

(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性

「問い」の解決に向けて、提案する研究の重要な点、オリジナルな点、研究の特徴を書く。

(2)-1 研究の目的

「問い」の後半に書くべき
●研究の「目的」と「展開」

(2)-2 学術独自性と創造性

対応

※研究の目的に合った独自性と創造性

(3) 着想に至った経緯や、関連研究動向と本研究の位置づけ

「経緯」はこれまでの研究経緯から研究計画を着想したオリジナルな経緯。「関連研究動向」には研究者の実名や論文をあげて本研究テーマの現状を説明。「位置づけ」には本研究がこの研究分野にどのように貢献できるか。

(3)-1 着想に至った経緯

(3)-2 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

(4) 何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

どのように研究を進めていくのが具体的に書く。本研究を分野者と実施する場合は代表者・分野者の具体的な役割を記述する。

(5) 本研究の目的を達成するための準備状況

本研究がどの程度進んでいるか、研究に使用する機器や装置の保有状況や共同研究体制、依頼関係など。

実施可能性の証明

2. 応募者の研究遂行能力及び研究環境

補充

単に技術の開発ではない事に注意！
学術研究的に何かを解明してその結果として方法や技術を確立する事がわかるように

研究業績を網羅するのではなく、
本研究計画の実行可能性を説明において
根拠となる文献の主なものを記載する。

(1) これまでの研究活動は、
これまでの研究実績や予備的な研究結果
(2) 研究環境は、不足分は〇〇大学から借り
る等、資料（試料）の入手方法等具体的に書
く。指導を仰ぐとは書かない。自分でやるこ
とをアピールする。

1. 研究目的、研究方法など

(1) 学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」

何が問題点なのか、何を説明すべきなのかを明確に書く。

(1) -1 本研究の学術的背景（申請者他の研究者）

(1) -2 研究課題の核心をなす「問い」、何が問題で説明すべき課題は？

(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性

「問い」の解決に向けて、提案する研究の重要な点、オリジナルな点、研究の特徴を書く。

(2) -1 研究の目的

(2) -2 学術独自性と創造性

(3) 着想に至った経緯や、関連研究動向と本研究の位置づけ

「経緯」はこれまでの研究経過から研究計画を着想したオリジナルな経緯。「関連研究動向」には研究者の実名や論文をあげて本研究テーマの現状を説明。「位置づけ」には本研究がこの研究分野にどのように貢献できるか。

(3) -1 着想に至った経緯

(3) -2 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

(4) 何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか

どのように研究を進めていくのか具体的に書く。本研究を分担者と実施する場合は代表者・分担者の具体的な役割を記述する。

(5) 本研究の目的を達成するための準備状況

本研究がどの程度進んでいるか、研究に使用する機器や装置の保有状況や共同研究体制、体制図など。

2. 応募者の研究遂行能力及び研究環境

・「競争的資金取得に向けた頭の整理」

過去の採択された申請書や各種の研究資料等の分析から、採択される申請書作成のために取り入れたい共通ポイントを参考資料としてまとめました。

競争的資金取得に向けた頭の整理

【学外秘】

【経緯】

- 教員の中には頭の整理がなされないまま、競争的資金申請書を書く方がおり、途中で考え方にブレが生じ、そのため一貫性や普遍性に欠ける申請内容になるケースが散見される。その防止策として以下をまとめた（各項の添付資料をご参照ください）。

1 概要（添付①）

- 数百文字で本研究を立案した意義と独自性の取組みで、どのような課題解決ができ、どのような進捗が期待できるかを記載（概念図）を入れ、普遍性があることを示す

2 背景（添付②）

- 経緯と研究の必要性

3 本研究の狙い（添付③）

- 〇〇の評価手法の開発
- 目標値（原則数値化すること）

4 研究の独自性と従来研究の差別化（添付④）

- 従来法では加熱が必要のため、〇〇の正確な分析が不可
- の分析に蛍光剤を適用することで、〇〇の正確な分析が可能
- ：科研費若手→C→B→A→Sと上位程、差別化点を増やす

〇〇評価法	評価原理	課題
本開発法		
従来A法		
従来B法		

6 実施体制（陣体形）（添付⑥）

：科研費若手(1名)→C→B→A→Sと上位程、分担者を増やす

項目	担当
課題1：〇〇の評価	佐賀大学A助教
課題2：●●の最適化	A大学●助教
課題3：〇△成果の■への適用	B大学口進教授

関連論文・特許リスト付き

7 実施内容と計画（添付⑦）

- ①〇〇の測定・評価
- ②●●の最適化
- ③最適化条件での■への適用・評価

項目	2021	2022	2023
課題1：〇〇の評価	→		
課題2：●●の最適化		→	
課題3：〇△成果の■への適用			→

8 禁句と表現上のノウハウ（添付⑧）

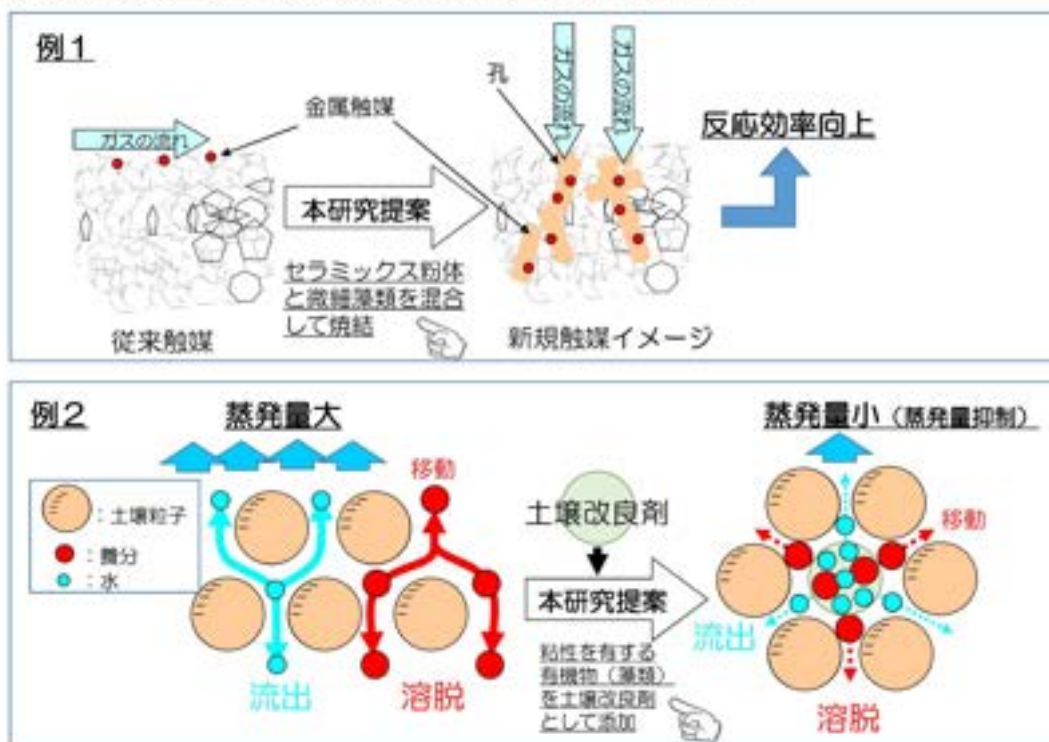
9 成功者からの教訓（添付⑨）

- 早く着手し、第三者に判りやすい表現を徹底！

©2021.6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIFA

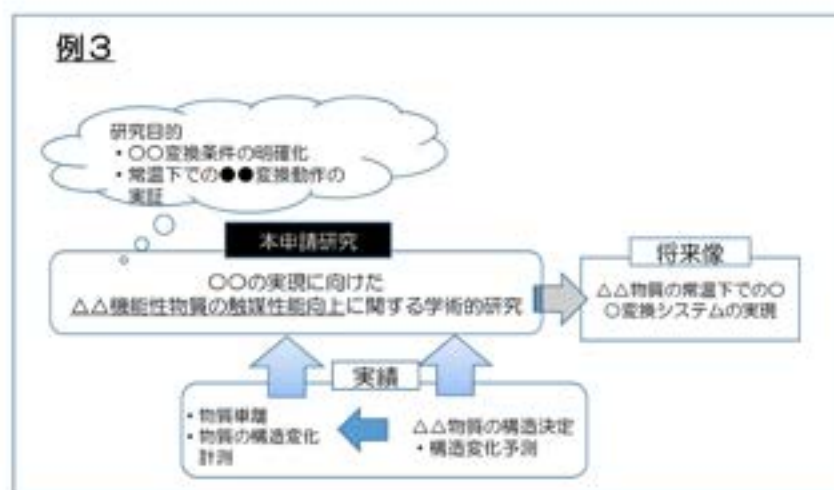
競争的資金取得に向けた頭の整理（添付①：概念図）



© 2021.6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIFA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付①：概念図）



© 2021.6/30

リージョナル・イノベーションセンター URA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付①：概念図）



全体の流れが簡潔に把握できて、且つ、研究の中心部分が明確

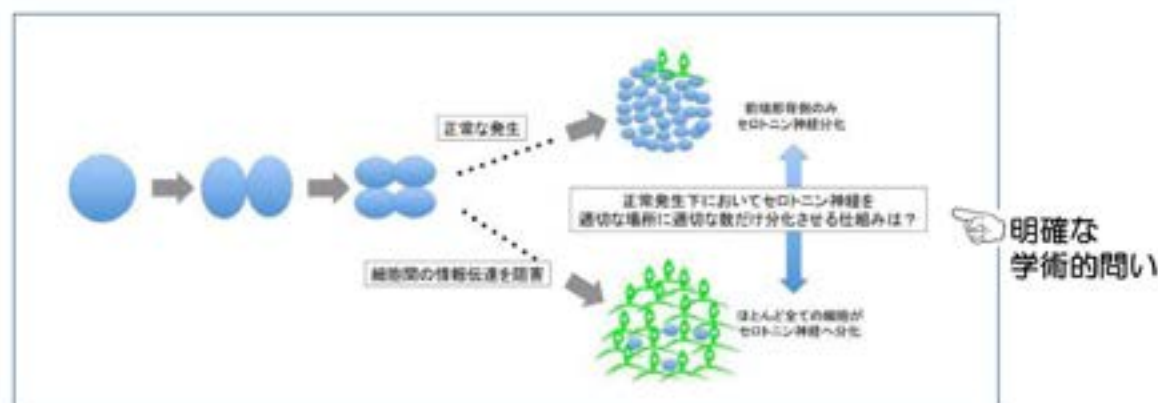
※JST未来社会創造事業「革新的ハロゲン循環による材料の高資源化プロセスの開発（研究開発代表者：東北大・吉岡教授）」
資料から引用https://www.jst.go.jp/miraai/jp/uploads/saitaku2017/IPMIMI17CA_yoshioka.pdf

© 2021.6/30

リージョナル・イノベーションセンター URA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付②：経緯と研究の必要性）

〇〇において、△△部分が神経の正常な分化に寄与が大であり、近年、△△部分の状態把握することで、適切な場所と適切な分化の数を決定する因子の解明に繋がり、●●への適用等、新たな展開が可能。



※筑波大学ホームページ「注目研究 決まった位置にセロトニン神経が形成されるメカニズムの一端を解明 ～ウニ初期胚を用いた研究から～」から引用<https://www.tsukuba.ac.jp/attention-research/r201605301500.html>

©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIPA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付③：本研究の狙い）

〇〇の評価に適用可能な□□を対象とした△△計測法を研究開発
△△計測精度は従来比半減の厚さ5mmに設定
⇒精度を5mmに設定することで、従来適用できなかった〇〇の計測が可能になり、適用範囲が飛躍的に拡大する。

（原則数値化すること）

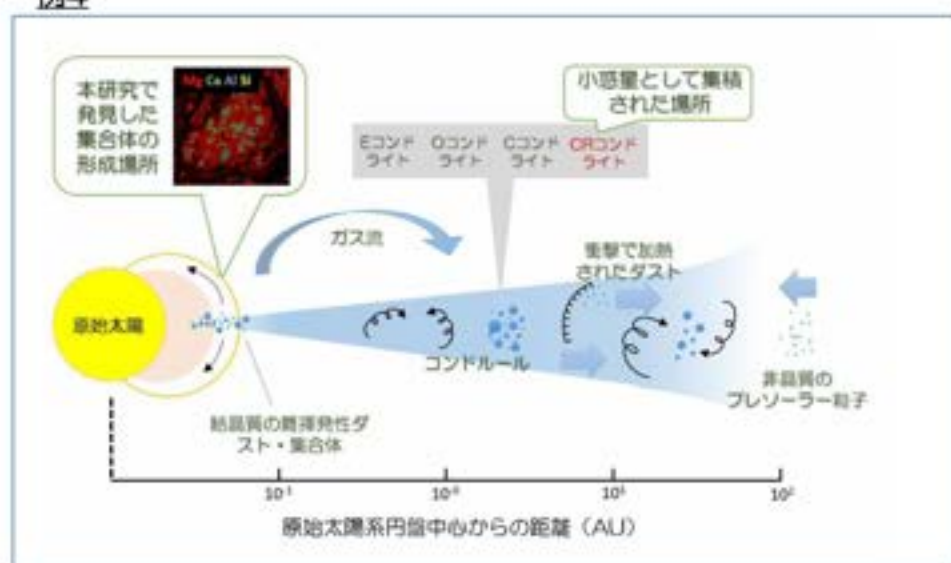
皆が納得する根拠を示す！

©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIPA

添付①の研究の経緯と必要性の図と同様に、全体的なマップの中での位置づけを示すことが有効な場合には以下の事例を活用

例4※



※国立天文台・研究成果公表（平成30年7月3日付）『原始太陽系円盤の中心近くで結晶化したシリカを隕石中に初めて発見』から引用(<https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20180703.html>)

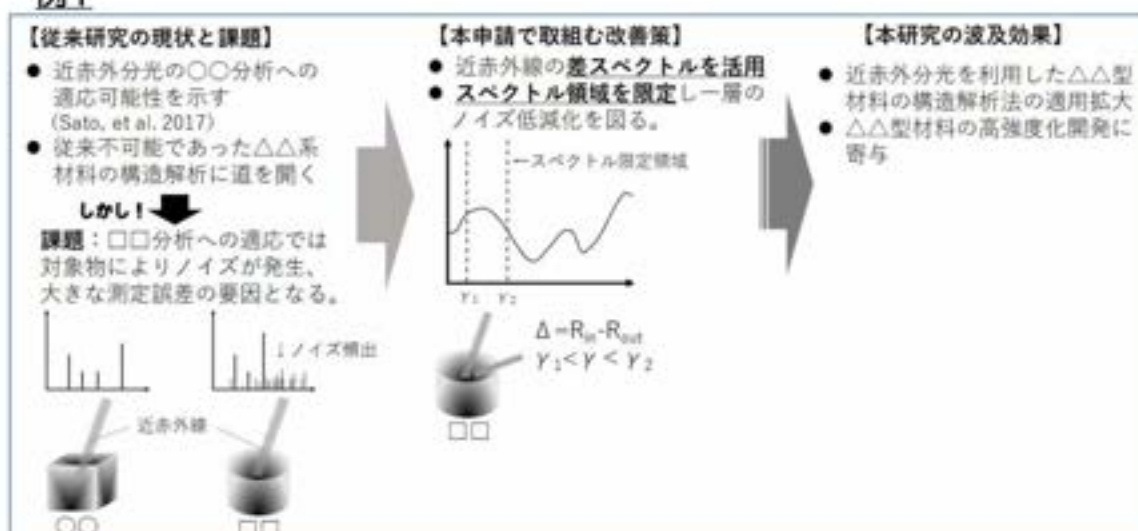
©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIPA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑤：当該研究の現状（予備調査結果））

- 本研究開発法の進捗度合いと課題の明確化：どこまで進展し、何が課題かを記載
- 文献調査で、〇〇の分析に適用するには、近赤外分光が適用が示唆されている。
- 近赤外を□□へ適用した場合には、対象物によりノイズが発生しやすいことが判明
- ノイズ低減には、近赤外の差スペクトルを活用することで、ノイズ低減が期待できる。
- かつ、スペクトルの領域を絞ることで、更にノイズ低減に期待が持てる。

例1



©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIPA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑤：当該研究の現状（予備調査結果））

- ・本研究開発法の進捗度合いと課題の明確化：どこまで進展し、何が課題かを記載

例2

文献調査及び予備実験で、〇〇を達成するには、3つの課題があり、
課題1では現状目標値の半分（30g/m²・d）

課題2は現状目標値の6割（30%）

課題3は現状目標値の半分（45%）

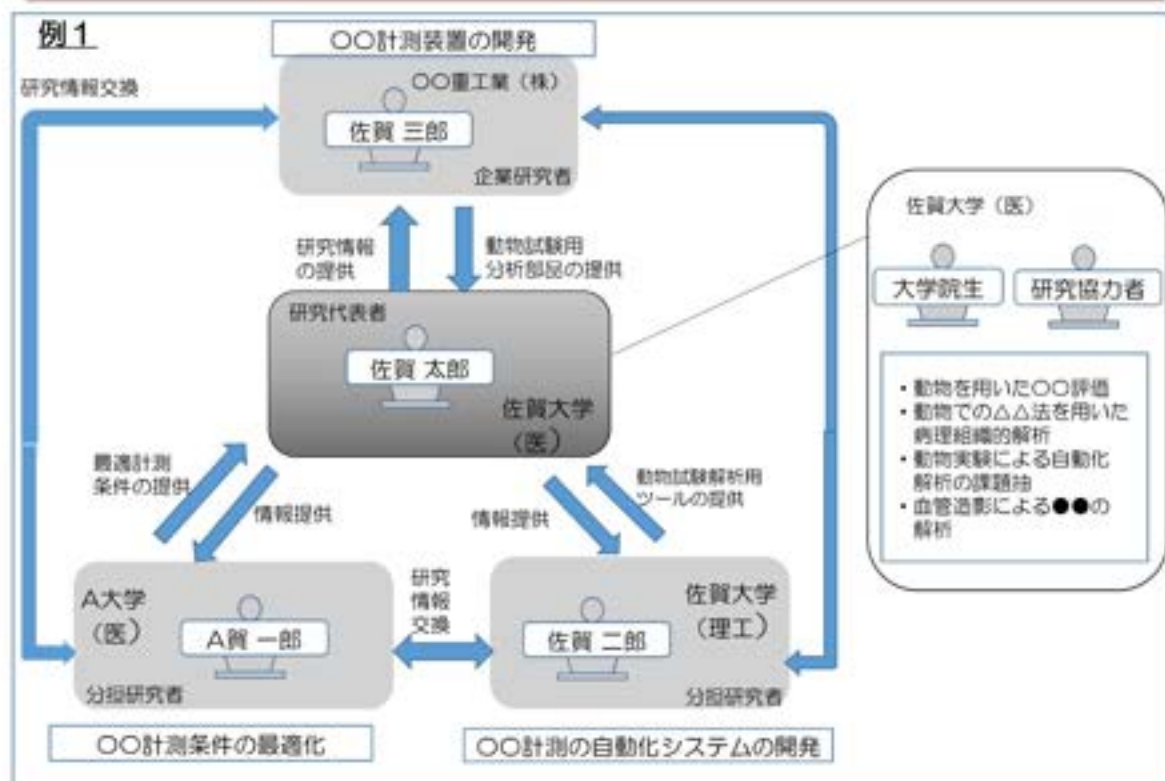
課 題	研究の現状と目標値	対応策（打ち手）
①藻類生産 速度の向上 (g/m ² ・d)		光合成色素制御による生産速度向上
②デンプン 含有率の向上 (%)		培養環境制御
③乳酸変換 の向上 (%)		乳酸変換 遺伝子の増強
最終実現形態		(数百円/kg) 100 m × 100 m

©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIPA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑥：実施体制（陣体形））

例1



©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター LIPA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑥：実施体制（陣体形））

例2



※東京大学「アジア比較社会研究のフロンティア（JSPSアジア・アフリカ学術基盤形成事業）」
ホームページ実施体制図を引用<http://ricas.ics.u-tokyo.ac.jp/asplatform/outline/03.html>

©2021/6/30

リサーチ・イノベーションセンター URA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑦：実施内容と計画）

初年度においては、〇〇の課題解決のため、□□を立ち上げるこのため

1)・・・、2)・・・、3)・・・を実施する。

次年度は、□□の課題対応に向け、1)・・・、2)・・・、3)・・・を実施する。

最終年度は、2年目までの知見を元に、1)・・・、2)・・・、3)・・・を実証する。

また、本申請研究が当初の計画通りに進まない場合には、対象資料を〇〇に絞り、〇〇以外の方法（△△法）を適用し、□□を工夫して問題解決を図る。

例1

		研究期間												当初の計画通りに進まない場合の対応
		令和2年度				令和3年度				令和4年度				
実施内容		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	
AIの適用に向けた基本準備	1)ネットワーク構築の基本設計													当初の予定通り進め、本申請に必要ないものを追加して準備する。
	2)AIの学習用サーバー環境の構築													構築ソフトウェアの選定に際しては、必要に応じてメーカーの助力を得る。
	3)学習データの収集及びタグ付け													収集が予定される場合は収集活動を開始し、必要に応じて追加する。
AIの適用検証	1)データ学習の実施と精度評価													期待する精度が得られない場合は、12月の成果を踏まえ、調査データの選定を中止し、AIの検証を見直す。さらに、AIの検証を最適化するためのソフトウェアサービスを導入して、学習に用いるデータが多少なりとも質的・量的に向上する。
	2)適応性検証データを用いた適応性評価													構築ソフトウェアの選定に際しては、必要に応じてメーカーの助力を得る。
	3)学習及び適応性に関する精度評価結果を受けたいネットワーク構築の改善													令和3年度までに実証で得られた結果と実証結果が達成できない場合は、実証と実証で得られた結果があることが確認される。それらの結果に影響する要素を特定する要素に対して対応可能なAI検証が学習サーバー環境を図る。
環境実証におけるAIモニタリングの実施及び精度評価	1)実証環境モニタリングを実施するためのセンサー及びセンサー環境の整備													構築ソフトウェアの選定に際しては、必要に応じてメーカーの助力を得る。
	2)実証環境モニタリング実施及び精度評価結果の検証													令和3年度までに実証で得られた結果と実証結果が達成できない場合は、実証と実証で得られた結果があることが確認される。それらの結果に影響する要素を特定する要素に対して対応可能なAI検証が学習サーバー環境を図る。
	3)実証環境モニタリングの精度評価結果を受けたいネットワーク構築の改善													令和3年度までに実証で得られた結果と実証結果が達成できない場合は、実証と実証で得られた結果があることが確認される。それらの結果に影響する要素を特定する要素に対して対応可能なAI検証が学習サーバー環境を図る。

©2021/6/30

リサーチ・イノベーションセンター URA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑦：実施内容と計画）

例2



例3



※産業技術総合研究所・情報セキュリティ研究センターホームページから引用
<https://www.rdc.aist.go.jp/about/rtpa-ja.html>

©2021/6/30

リージナル・イノベーションセンター LIRA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑧：禁句と表現上のノウハウ）

【禁句】

- ・検討する ⇒ 再現性を確認する：具体的な行為を記載のこと！
- ・私は ⇒ 研究代表者は

【表現上のノウハウ】

- ①難解な専門語は極力避け、結論を先に表現する（答えを散りばめる）。
- ②概要部には社会的意義や学術的意義を記載（審査員にインパクトを与えるキーワードを入れる）
- ③普遍性に繋がる内容を記載
：当該研究が普遍的な広がりを見せて、その中で代表事例としていくつか検証し、普遍性が見えてきたとの結論にする。
- ④行末は読み易い箇所と区切る
例：〇〇の分析は、〇●の検出性能が高いため、実現可能である。 :O
例：〇〇の分析は、〇●の検出性能が高いため、実現可能である。 :X
- ⑤図は一目で判る図に仕上げる（白黒印刷で明瞭さが認識できる色使いとする）
- ⑥フォントはMSP明朝、太文字表現はMSPゴシックの11pointで記載
- ⑦行間は16ポイント前後を推奨
- ⑧業績部分で自分の名前部分はMSPゴシックのアンダーライン
- ⑨長い文章は不可 ⇒ 箇条書きを多用
- ⑩訴求したい部分は、「即ち、〇〇〇である」という記載にする
- ⑪当該研究が、喫緊の課題に対応する内容（切迫感を出す）に仕上げる。

©2021/6/30

リージナル・イノベーションセンター LIRA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑨：成功者からの教訓）

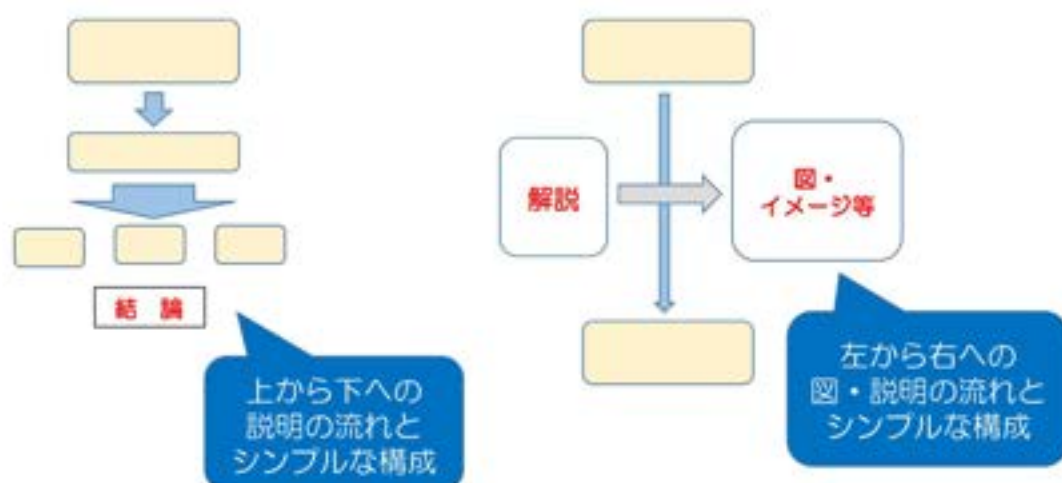
- 筑波大医学医療系YK教授*（筑波大史上初の科研費S連続採択者、科研費採択率74%）への
科研費獲得に向けたヒアリング結果（秘訣）を以下に記載！
- ①科研費の準備を7月から着手すること。
 - ②出来上がった原稿やプレゼン資料を第三者から見もらうこと。
 - ③申請書は難解な言葉を無くして記載のこと。
 - ④導入部には、審査員の興味を惹くフレーズなど入れること（最重要項目）。
：導入部から前半で勝負は決まる。後半（研究方法あたり）では審査員の評価は決まっている。
 - ⑤研究体制（座組）は戦略的に配置し、誰が何を実施し、これにより学術的問い、社会的問いに応じる仕組みになっていることを見せること。
 - ⑥当該研究分野の課題を申請書に入れること。
：実際の課題が多数存在しても、対策を提示して、課題を絞り込む（これだけとする）。
⇒その課題に対してこれで解決することを示す。その成果による波及効果もシンプルに示す。
 - ⑦課題解決のため、研究戦略の強みを有する対応により、課題解決に挑むことを記載のこと。
また、着想や実現性も記載のこと。
 - ⑧申請書の文章は流れる内容に仕上げること。
 - ⑨科研費Bの採択経験者は科研費AやSを同時に申請すること（垣根は意外と低い）。
 - ⑩科研費Sはヒアリングがあるため、申請と同時にプレゼン資料10枚を作成のこと。
 - ⑪科研費Sのヒアリングは説明10分、質疑10分のため、素人にも判りやすい資料に仕上げると共に、文献などを配布資料としても活用のこと。
 - ⑫プレゼンで当該研究で新たな展開が可能な旨をPRする場合、アニメーションを使い新たな扉が開ける見せ方をする。

*佐賀県出身（佐賀西高⇒福岡大薬学部⇒国立環境研⇒筑波大）

©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター URA

競争的資金取得に向けた頭の整理（添付⑨：成功者からの教訓）



©2021/6/30

リージョナル・イノベーションセンター URA

過去の採択された計画調書の閲覧

科学研究費助成事業（科研費）で採択された研究計画調書のうちいくつかを学内限定で公開する取組を実施しています。いずれも採択された先生方に本取組についてのご理解を頂き、学内限定公開のご了解を頂いたものです。

研究計画調書の閲覧は、URA室（本庄キャンパス・産学交流プラザ1階101号室）内でのみ閲覧可能です。

現在公開されている計画調書例

研究種目	所属学部/研究代表者	課題名
基盤研究C	農学部 下村彩 先生	炭素低投入型農業を目指した窒素固定超増強ダイズ系統の作出
基盤研究C	教育学部 大林将呉 先生	図形領域における小学算数から中学数学の論証理解への滑らかな接続に重要な要因の解明
若手研究	医学部 宮原尚文 先生	Deep Learningを用いた胸部X線画像から呼吸機能を推定する革新的なプログラムの開発
若手研究	経済学部 孫友容 先生	DX時代における著作者人格権と著作権の役割分担論
若手研究	医学部 平田寛人 先生	時計遺伝子DEC1による骨芽細胞への影響に関する研究—骨粗鬆症治療の新たな標的
研究活動 スタート支援	教育学部 大林将呉 先生	図形領域における小学算数から中学数学の論証理解への滑らかな接続に重要な要因の解明



科学研究費助成事業データベース

採択時のデータ（採択課題）、研究成果の概要（研究実施状況報告書、研究実績報告書、研究成果報告書概要）、研究成果報告書及び自己評価報告書を収録したデータベースです。

科学研究費助成事業は全ての学問領域にわたって幅広く交付されていますので、本データベースにより、我が国における全分野の最新の研究情報について検索することができます。

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>



活用方法は様々

- ・ 研究課題の類似研究調査
- ・ 研究課題と区分・分野設定の参照
- ・ 研究概要の書き方参照

:

※様々な項目による
詳細検索もできます。



採択へ向けての“秘訣”

① まずは以下の3点があるか

- ・ 着想ポイント
なぜそこへ至ったのか、どういった背景なのか
- ・ アイデア
アイデアを生み、整理する
- ・ 業績
関連研究実績をしっかりと積み上げてきているか

② 研究計画調書を書く時間をたっぷり確保

③ 完璧な“陣形”、強力な共同研究体制を整える

- ・ 自分の弱い領域を共同研究者（他人）で補強する

◇審査員の気持ちを察する、心のゆとりを持つ

- ・ 申請書は論文ではありません。審査員に読んでもらって初めて良し悪しが評価されます
- ・ 審査員に最良の「勉強の糧」を与えること
 - ・ 唸らせるほどの凄いアイデア、斬新かつ有用な知見・方法論、創造性に富む発想・着想点 など



参考資料 令和5年 「チームで科研費を獲りにいく！」医学部 寺本憲功 教授

「アイデアの作り方」

ジェームス・W・ヤング（著）

1940年から世界中の人々を魅了し続ける不変の法則。
不朽の名著。

（序文より一部を抜粋）

知識はすぐれた創造的思考の基礎ではあるが、十分でない。

知識は、よく消化されて、最終的に、新鮮な組み合わせと関連性をもった姿となって心に浮かび出てこなければ意味がない、という点で彼らの意見は一致する。

アインシュタインはこれを直観と呼び、直観だけが新しい洞察に到達する唯一の道だと言っている。

アイデアの良し悪しは、遺伝子までも含めてあなたのもつすべての資質と能力でできるものだ。



内容をもう少し知りたい方はこちらのWEBサイトをご覧ください。

* Sato Masahiro氏note記事 図解「アイデアの作り方」

<https://note.com/satomasa/n/n0413f3aca9b0>

イラストで内容をまとめ、紹介されています。

(参考) 令和8年度公募における主な変更点等

※文部科学省：令和8(2026)年度科学研究費助成事業－科研費－（学術変革領域研究（A・B）、特別研究促進費）の公募について（通知）より

（１）公募スケジュールについて

令和7(2025)年度に公募を実施する令和8(2026)年度科研費（「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金」については令和7(2025)年度科研費）の今後の主な公募スケジュールについては、以下を予定しています。

また、「海外連携研究」については、令和7(2025)年度採択分以降、公募は行いません。

令和8(2026)年度科研費公募スケジュール（予定）（※１）

研究種目名（※２）	公募開始	公募締切	審査結果通知（※３）	交付内定（※４）
特別推進研究	令和7年4月11日	令和7年6月17日	令和8年1月上旬	令和8年4月上旬
基盤研究（S）	令和7年4月11日	令和7年6月17日	令和8年2月中旬	令和8年4月上旬
学術変革領域研究（A・B）	令和7年4月11日	令和7年6月17日	令和8年2月中旬	令和8年4月上旬
学術変革領域研究（A）（公募研究）	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月中旬	令和8年4月上旬
基盤研究（A・B・C）、若手研究	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月下旬	令和8年4月上旬
挑戦的研究（開拓・萌芽）	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年6月下旬 （令和8年2月下旬（※5））	令和8年6月下旬
奨励研究	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年1月下旬	令和8年4月上旬
研究成果公開促進費	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年3月下旬	令和8年4月上旬

令和7(2025)年度科研費公募スケジュール（予定）（※１）

研究種目名（※２）	公募開始	公募締切	審査結果通知（※３）	交付内定（※４、６）
研究活動スタート支援	令和7年3月1日	令和7年5月8日	令和7年7月下旬	令和7年7月下旬
国際先導研究	令和7年1月9日	令和7年3月14日	令和7年11月下旬	令和7年11月下旬
国際共同研究強化	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月下旬	令和8年2月下旬
帰国発展研究	令和7年7月14日	令和7年9月17日	令和8年2月下旬	令和8年2月下旬
海外連携研究	公募停止（令和7年度採択分以降、公募は行いません）			

※１ いずれも新規応募課題についての日程です。

※２ 上記以外の研究種目の日程については、各公募要領等を御確認ください。

※３ 新規応募課題の採否について交付内定前又は交付内定と同日に研究代表者に科研費電子申請システムを通じて通知します。

なお、審査結果通知を受け取り「採択」とされた場合、研究開始の事前の準備は可能となりますが、必要な契約等は従前どおり交付内定後に行ってください。

※４ 予算成立の状況等によっては、交付内定時期が変更されることがあります。

※５ 括弧内は「事前の選考」の審査結果通知の時期です。

※６ 帰国発展研究については、「条件付き交付内定」を行います。

（２）研究設備共用の促進について

研究費の効率的な使用や設備の共用を促進するため、令和 7（2025）年度から、科研費の直接経費を使用して購入した研究設備・機器のうち、使用ルールで定めた条件を満たすものについて、研究機関の内外へ共用することを求めます。特に、当該研究設備・機器を検索システム等に登録することにより、研究機関内外に対して可視化するようにしてください。詳細は、「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」（令和 4 年 3 月 大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等の策定に関する検討会）及び科研費使用ルール（補助条件及び交付条件等）を参照してください。

研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン（令和 4 年 3 月 大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等の策定に関する検討会）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/163/toushin/mext_00004.html

（３）研究データマネジメントについて

令和 6（2024）年度から、原則全ての研究種目において研究データマネジメントプラン（DMP）の作成を求めています。DMP の作成例等の詳細は交付内定時や以下の URL に示していますので、当該内容に沿って研究課題における研究成果や研究データの保存・管理等を行ってください。

また、令和 7（2025）年度に提出される実施状況報告書及び実績報告書の一部として、補助事業により生み出し公開した研究データの情報（メタデータ等）を提出してください。

○科研費における研究データの管理・利活用について（日本学術振興会ホームページ）

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/10_datamanagement/index.html

（４）学術論文等のオープンアクセス化の推進について

学術論文の発表等を通じたオープンアクセスの推進のため、令和 7（2025）年 4 月以降に新たに行う公募から、原則全ての研究種目において、学術雑誌への掲載後、即時に「機関リポジトリ等の情報基盤」への掲載が義務づけられます。掲載された情報は、実施状況報告書及び実績報告書の一部として報告いただく予定です。

